



卒業生へのプレゼント贈呈式 ～福田の思いを いつまでも～

2日、学校と地域（蓮沼昇さん・武藤潔さん）からのプレゼントを6年生に渡しました。

学校からのプレゼントは学校のシンボルツリーであるヒマラヤ杉の松ぼっくりからとれる「シダーローズ」をケースに入れたものを、蓮沼さんからは「鉛筆立て」を、武藤さんからは先日の陶芸教室で作った世界に一つだけの「焼きもの」をプレゼントしていただきました。

学校も蓮沼昇さんも武藤さんも「子どもたちに思い出に残るものを」という共通の思いをもって、「それならば一緒に・・・」ということで今回の企画が実現しました。プ

レゼントには「福田の思い」がこめられています。これから中学に行き、大人になっていく中で困難にぶつかったときに、プレゼントを見て、頑張るエネルギーを得て欲しいと思ったのです。「自分は一人じゃない。」「帰れる温かいふるさと『福田』がある。」「友達がいる。」「・・・と思えるきっかけになるものを子どもたちに持っていてほしかったのです。大事そうに持ち帰っていく子どもたちを見て、一層「頑張れ」という気持ちが強くなりました。

臨時休業スタート ～前向きに捉えて～

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、明日から学校は臨時休業になります。あまりに突然で、複雑な思いもありますが、子どもの命を守ることが最優先、最悪を想定して事前に対応することを考えれば当然といえば当然のことかとも思います。そして、考え方によっては「忘れられない強烈な思い出」になったことは間違いないのかも知れません。臨時休業の時間は自分の苦手を克服する時間にもすることができるでしょう。やってみたかったことにじっくり向きあう時間にもできるでしょう。自分で考え、自分で判断し、自分で行動し、自分を律し成長させる機会にもなるでしょう。たくさんの本が読める時間にもできるでしょう。前向きな思考には前向きな人生が宿ると考えます。現在の状況を冷静に俯瞰的に捉える必要はあるにせよ、決して悲観的にならないようにしたいと思います。



今年度も振り返れば早いものでした。しかし、その中で子どもたちは大きな成長を見せてくれたように思っています。子どもたちには、特にこの2つのことを意識して話してきました。

一つ目は「**+**α」です。もう少し頑張ってみる、もう少し優しくしてみる、もう少し・・・、もう少し・・・の積み重ねで今の自分を少しずつ、少しずつ大きくしていこうというものでした。子どもたちはよく頑張りました。勉強・生活の見直し、友達への接し方等+αの考え方が定着していることを実感しています。

二つめは、「**命**」です。子どもたちには、「死ぬな」という強烈な言葉でメッセージを送り続けました。生きるということについては、ほとんど無意識で過ごしているのが現状ですが、生きるということは大変なところもあるけれど、なんと素敵なこと、なんと大切なことかを知って欲しかったのです。今回の新型コロナウイルス対応もまさに「生き抜く」ための対応なのかもしれません。自分の命とあわせて友だちの命を傷つけることは絶対に許さないとすることも伝えてきました。体・心を傷つける「いじめ」の未解決「ゼロ」、不登校児童「ゼロ」を達成できたことにはなよりの成果と感じています。

また、学校の土台となる「**地域とともにある学校づくり**」の推進にも努めてきたつもりです。各種行事への協力依頼、お世話になった方を招いての収穫祭・感謝の集い・・・様々な場面を通して学校・家庭・地域が一体となつての教育活動を進めて参りました。本当にお世話になりました。

令和4年度の学校再編を控え、次年度からはその準備・対応が本格化してきます。特に閉校に向けての企画、今行っている子どもが関わる地域行事のあり方検討等は学校・保護者・地域が一体となって考えなければならない問題です。どうぞよろしくお願ひします。

例年よりちょっとはやいですが、今年度一年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。